

令和４年度第１回 淀川区区政会議 議事要旨

日 時：令和４年８月８日（月） 午後７時００分～午後９時０５分

場 所：淀川区役所 ５階 会議室

出席者：

- ・ 委員（25 名中 20 名出席）
浅井委員、梅原委員、大西委員、大屋委員、加藤委員、佐々木委員、田中委員、寺田委員、中井委員、永野委員、中本委員、西岡委員、西澤委員、平野委員、水本委員、森委員、山本（宗）委員、山本（留）委員、横山委員、米田委員
- ・ 区役所
岡本区長、橋本副区長、畑中総務課長、田口政策企画課長、山川保健福祉課長、井上教育支援担当課長、武田保健・子育て支援担当課長
大橋政策企画課長代理、長谷川市民協働課企画調整担当課長代理、生駒市民協働課教育支援担当課長代理、竹田保健福祉課福祉担当課長代理、森川保健副主幹 ほか
- ・ 第一生命保険株式会社大阪北支社新大阪営業オフィス
有井オフィス長（オブザーバー参加）

内 容：

- １．開 会
- ２．区長あいさつ
- ３．議 題
 - （１）令和４年度第１回淀川区区政会議 各部会報告について
 - （２）令和３年度淀川区運営方針の振り返りについて
 - （３）淀川区将来ビジョンについて
 - （４）淀川区地域福祉推進ビジョンについて
 - （５）区政会議におけるご意見への対応方針について
 - （６）その他
- ４．その他

資 料：

【当日配付資料】

- ・ 次第
- ・ 区政会議委員名簿、座席表

- ・（資料１）令和４年度第１回 各部会議事要旨
 - ①教育・子育て部会
 - ②コミュニティ力向上部会
 - ③安全・安心なまち部会
- ・（資料６）区政会議委員の意見を参考に取り組んだものの例
- ・（参考資料）第１回淀川区地域福祉推進ビジョン策定に関する意見交換会議事要旨

【事前配付資料】

- ・（資料２）【概要版】令和３年度 淀川区運営方針
- ・（資料３）淀川区将来ビジョン（案）
- ・（資料４）淀川区地域福祉推進ビジョン（案）
- ・（資料５）区政会議におけるご意見への対応方針

１． 開会

２． 区長あいさつ

３． 議題

（議題前に、第一生命保険株式会社大阪北支社新大阪営業オフィス 有井オフィス長の紹介及び事前質問への回答）

- ・企業側がどんな方法でどれだけ地域の情報を入手できているのか、具体的に区役所の広報誌、回覧の有無、LINE、ツイッター等を見ているのかどうかという質問については、現在40名弱の職員のうち、約3分の2以上が淀川区在住で、基本的にはホームページを見て地域の情報を得ているのが主要な方法でした。率直な意見ですと、情報を得られている感覚というのは少ないという厳しい意見も中にはありました。広報誌、LINE、ツイッターは1割程度の職員は見るようですが、ほとんどが閲覧はしていない状況でした。若い職員も多く、ではどうすれば見るのかというと、例えばインスタやLINEニュース等を見ていることが多く、ニュース的な形式で定期的に情報がくると、見る回数も増えるのではという意見もありました。
- ・区政会議や地域活動協議会、社会福祉協議会の存在、その活動への理解がどれぐらいあるかについては、区在住の職員は、ほぼ認知していない状況でした。私達マネジメント層は、コロナ禍の間に、自ら社会福祉協議会等に出向き、密にいろいろな情報連携を行ったという経緯があります。その中の一つとして、淀川区役所と包括連携協定を締結したということもありました。

ただし、親と同居している世帯や家庭環境によっては、社会福祉協議会に月に1回行く等の家庭もあるようです。認知度としては低いような実感はありますが、これから先、情報を広げていくことに関してご協力できればと思います。

(1) 令和4年度第1回淀川区区政会議 各部会報告について

●資料1－①教育・子育て部会について報告（発表者：中本委員）

●資料1－②コミュニティ力向上部会について報告（発表者：山本（宗）委員）

●資料1－③安全・安心なまち部会について報告（発表者：永野委員）

○質疑

・高齢者がタブレットやスマホを活用して、いろいろな情報を見ることが難しいということで、新高では7月から、ある企業にお願いし、スマホ講座を2回行いました。電話をかけるだけというのはかなりの方が使っていますが、そこから情報を見るというところまで至ってないというのが現状です。LINEもしてみたい、ツイッター、インスタって何？ということ言われていますので、皆さんに少しずつ伝えていきたいということで取り組んでいます。（米田副議長）

(2) 令和3年度淀川区運営方針の振り返りについて

●資料2について説明（田口政策企画課長）

○質疑

・防災に関して、企業側として御質問をさせていただきます。実際に備えておいた方がいいもの等の広報活動や講習会等、防災に関する訓練というのはされているのでしょうか。また、企業側、第一生命側に対して、こういうことをしていただけたら、というご意見等があれば教えていただければと思います。（第一生命保険株式会社大阪北支社新大阪営業オフィス 有井オフィス長）

⇒市民防災マニュアルがあり、非常時の持ち出し品のチェックリストが掲載されています。そのような形で広報をしています。（長谷川市民協働課企画調整担当課長代理）

⇒区内18地域の地域ごとに、それぞれの課題を探しながら、避難所の開設訓練や防災訓練を行いながら、避難所の中で必要な備蓄物資等を考えながら取り組んでいます。また、出前講座の取組で、基礎的な防災の勉強会をしており、御依頼がありましたら行かせていただきます。

区役所としては、区内在住の職員さんが3分の2おられるということで、若手世代や働き世代の方がどういう情報があれば役に立つ等を教えていただ

けると対策ができると思いますので、連携できればと思っています。（瀧谷市民協働課担当係長）

- ・ 4、5年前に、神崎川と淀川との間に挟まれて、洪水というか危険水域の問題がありましたが、今、淀川区で何か変化があったようなことはありますか。また、例えばベッド、発電機やバッテリー等の防災器具について、社会情勢でいろいろ変わってきているのでしょうか、何が一番必要なものでしょうか。（中井委員）

⇒氾濫の関係では、昨年8月頃に、各世帯にハザードマップを配付しています。この中に、河川が氾濫しそうになったときの警戒レベルで、レベル3なら早めに避難、高齢者等の避難、レベル4は全員避難というのができました。どれぐらいの水位になると、この警戒レベルを発するという目安があり、ホームページで公表しています。

もう一点は、最近皆さんスマホもお持ちですので、モバイルバッテリーという充電できるものが役に立つかと思います。情報収集のために、テレビやラジオ、インターネットがつながる場合はスマホやパソコン等を使うのに、その必要な電源を確保できれば安心かということで、一つおすすめします。

（瀧谷市民協働課担当係長）

- ・ 第一生命さんが企業側として何ができるかとおっしゃられていましたが、私たちからすると、企業は現役の若い方がいらっしゃるので、すごく心強く感じます。住んでいても企業とは接点がない。企業さんでこれだったらやってもいい等のようなことがあれば教えていただき共有できればとてもありがたいです。連携は必要だと思いますので、少しずつでも広められたらありがたいです。（永野委員）

（3）淀川区将来ビジョンについて

●資料3について説明（田口政策企画課長）

○質疑

- ・ 今、虐待相談件数が20万件を超え、少子化で子どもはどんどん少なくなっているのですが、20年前と比べると虐待数が300倍になっています。この状態は、非常時ではないかと思っています。虐待をしてしまった親御さんが、子どもがかわいくなかったのかというと、決してそうではないと思います。例えば、車の運転をするときは、それなりの学びをし、免許証を取って、事故の起こらないような運転ができます。子育ても産前に、子どもとのコミュニケーションの取り方や、愛着形成をどうするのか、2歳のいやいや期をどうするのか等を事前に学ぶ機会があると、虐待件数はかなり減るのではないかと考えます。産前子育て教室を制度化して、子育てのコツ、子育てを学ぶ

ということをしつかりやっていただきたいと思います。(梅原委員)

⇒妊娠して出産を控えた方は、育児をきちんとできる知識、経験に非常に関心を持っておられるように思います。母親だけでなく、家族全体で育児していただきたいということで、プレパパ・ママ等ファミリー子育て教室を実施しています。御提案の産前子育て教室につきましては、これから検討させていただきます。

また、現在の取組としては、区内に9か所の子育て支援施設があります。育休中や、保育所・幼稚園に行かれる前のお母さんが来られるつどいの広場等です。そこでは、保育士の方がいらっしゃったり、お母さん同士で交流や情報交換ができ、お子さんも遊べるというような施設ですので、育児の不安感を少しでも和らげていただけたらというところです。(武田保健・子育て支援担当課長)

・新大阪駅周辺の新幹線や東海道線で、いつも新大阪から南に行ったり、西に行く時に不便さを感じています。何か検討されていることはあるのでしょうか。(田中委員)

⇒大阪都市計画局も認識していますし、国から正式に都市再生緊急整備地域として指定されると、実際に一般事業者が中心となって、民間のアイデアや知恵を活用して整備していく予定と聞いています。どのようなタイムスケジュールで具体的にどうするのか等は、現時点でまだ明確ではないというところですが、区政会議事務局としても情報を把握していきたいと考えています。(田口政策企画課長)

・淡路で今、高架、鉄道のいろいろな工事がされていますが、十三の地域では、私鉄の鉄道部門も絡んで、公的な資金的な援助等を受けながら進められるという考え方でよろしいのでしょうか。(中井委員)

⇒新大阪駅周辺というのは、新大阪駅、十三駅と淡路駅なのですが、先に新大阪駅周辺のエリアを都市再生緊急整備地域として指定し、次は十三や淡路というストーリーを描いているということになっています。

新大阪駅周辺地域の中で、実際にメルパルク大阪の建て替えに対して何か公的な支援を活用する予定と聞いています。(田口政策企画課長)

(4) 淀川区地域福祉推進ビジョンについて

●資料4について説明 (竹田保健福祉課福祉担当課長代理)

○質疑

・先日区社協の関係で、西成区のわかくさ保育園に見学に行かせていただきましたが、そこで衝撃的なお話を聞かせていただきました。子どもが病気やけがをした時に、園長先生が親御さんに病院に行ってくださいと伝えても、そ

の親御さんが病院に連れていかなかったということで、その理由を聞くと、自分自身が親に病院に連れていってもらった経験がないので、どうやって病院に連れていったらいいかが分からなかったという返答だったらしいです。12ページの「淀川区版ネウボラ」のところに子育てで、「友人や行政等に子育てに関する相談ができて」とありますが、自分は誰かに相談したことがないので子育てを相談してもいいという感情にならないというようにおっしゃられていました。何かがあるところにはいろんな背景があり、なぜ生活困窮者であって学校に通えないのか、子どもが不登校になった時に、その親御さんの背景を行政や私たちがその背景を徐々に突きとめないとなかなか前に進んでいけないのではないかとすごく感じました。（米田副議長）

- ・大阪府は、新型コロナで日本一の死者が出たと思います。これから新しい感染症等について、今こうしてとか、区でできることは予算を考えると難しいと思うのですが、コロナの今の被害を繰り返さないために、何が必要なのか、今までのやり方でどこが問題だったのかということの総括と今後の計画をぜひどこかで検討していただきたいと思います。

区役所の利用について、先日、西淀川区役所に行くと、障がい者の施設の方が自分たちが作られたものを売っておられました。西淀川区内に幾つあるか分からないのですが、毎週金曜日が順番に区役所内で販売しておられるそうです。

知り合いが淀川図書館で3か月に1回、朗読会をしておられるのですが、その方が来月は西淀川区役所で実施すると言われていました。淀川区役所でも、区民センターでもいいのですが、そういう場所貸してみたいなことができれば来られる方も増えて、区役所がイベントをして人を呼ぶのではなく、そこでイベントをしてくれた人、その周りの人が足を運ぶと、区役所の情報に接することもあるし、そこで人間関係のネットワークみたいなものもできると思いますので、検討していただければと思います。（永野委員）

- ⇒西淀川区や他の区役所でも、障がい者の方がパンを売られたりというのは確かにあるように記憶しています。淀川区役所は決して広い施設ではないのですが、今コロナの関係で難しいところがあるかもしれないですが、今後、前向きに検討していきたいと思います。（畑中総務課長）

- ⇒医療体制の問題については、広域圏ということになりますので、今、大阪府が中心となり、大阪の医療体制をしっかり把握をしていただいているところです。一方、区民の健康を守ることというのは私たち区役所の使命でもありますので、その点については、今後、大阪府、また大阪市の部局ともしっかりと議論をしていきたいと考えています。今、区の保健福祉センターで、保健師等が実際にコロナで苦しんでいる方のいろいろな御相談を受けたり支

援をしたりしているのが実情ですので、区として何ができるかについては、これからしっかり検討していきたいと考えています。(岡本区長)

- ・先日、要介護者の方が、車椅子をどこで借りたらいいかが分からなくて、区役所に電話をしたが、土曜日で電話が通じなかったのも、次に、近所、そして町会長に相談されると、もしかしたら地域の会館にあるかもしれないと、実際、会館も鍵がなくて行けずで、最終は介護施設で手配してもらえたという話がありました。できれば地域の会館に1台か2台車椅子があって使用できるということをお願いしたいと思います。

防災のトランシーバーについて、最近はコロナの関係でできていませんが、昔は三津屋の会館のトランシーバーで小学校までは通信できましたが、実際、淀川区役所と通信できるのでしょうか。それと、遠いところへの通信はどうでしょうか。(中本委員)

⇒MCA無線機を地域に1つお渡ししており、区役所と会館や小学校は通信できるようになっていますが、コロナ禍もあり、地域と区役所との間で無線機の訓練ができていない状況です。よろしければ、三津屋の会館と区役所とで無線機の通信のやり取りさせていただければと思います。(瀧谷市民協働課担当係長)

⇒各地域の会館で車椅子を常備し、管理をするということは、区役所単独では難しいところもあるかと思いますが、まず各地域の実情を確認したうえで、地域とお話ししながら、主体は地活協や連合町会等いろいろあるとは思いますが、どのくらいできるのか、どのようにやっていけるのか区役所として検討できるかと思っています。(畑中総務課長)

⇒区社会福祉協議会では、無料で貸出しをされており、最長で一月ほど借りられるみたいです。いろいろ条件があるかと思いますが、必要な方が近所におられましたら、区社協への相談をご案内していただければと思います。

(竹田保健福祉課福祉担当課長代理)

⇒新高は、会館に車椅子を常備しています。使用希望の方に借用書を書いていただき、最長1か月くらいお貸ししています。区社協でも、いつでも貸出しされているのと、介護申請をしていけば、ベッド等も介護の程度によって、どういうものが借りられるかというパンフレット等もあるので、行かれるといういろいろな情報が得られると思います。(米田副議長)

(5) 区政会議におけるご意見への対応方針について

●資料5について説明 (田口政策企画課長)

○質疑はなし

(6) その他

●資料6について説明（田口政策企画課長）

○質疑はなし

●第一生命保険株式会社大阪北支社新大阪営業オフィス 有井オフィス長からのコメント

- ・今まで、こちらから市役所、区役所をお願いして、地域密着のところで活動のご協力をいただくということをこの約2年半やってきました。

おそらく、区政会議のような会議に参加させていただいたオフィス長は、全国でも私か、あるいは数名いるかという状況だと思います。

ふだん私たちが思い描いていたイメージ、やろうとしていることとのいろいろなアンマッチが起きていることの気づきもありましたし、皆様が、なかなか見えづらいところで本当に努力されているところや、その中で、歯がゆいところもあるのかなと感じました。第一生命保険新大阪のオフィス長として、本日あった意見をまずは職員に連携をさせていただきます。

また、全てがお力になれるかどうかは置いときまして、この淀川区と一緒に盛り上げていけたらと本当に率直に思いました。力になれるところは力にならせていただけたらと思いますし、こういうところはできないかといった御意見も頂戴できたらと思います。

○質疑

- ・地域で活動されている方が高齢化していることが、どこの地域も問題となっています。地域のイベントをすると、若い人たちがたくさん来てくださいますが、イベント前の企画や準備段階において、なかなか若い人たちが入ってこないです。どういう方法を取れば、若い人たちを引き込むことができると思われますか。（米田副議長）

⇒一意見として聞いていただけたらと思うのですが、私のオフィスにも20代がたくさんいます。今の20代、10代の若い方々の興味を引くことがすごく難しいと感じるかと思います。10人のうち10人全員をこちらに向かせることはまず不可能ということを前提に物事を進めるべきだと思います。10人のうち3人にどうしても入ってもらいたいなら、興味や自己啓発心が高い方たちをいかに発掘して巡り合えるか、そういう場を根気強くつくっていくことが一つのやり方かと思います。いくら情報社会とはいえ、すごくきらびやかな情報を発信したとしても、なかなか食いついてこないという現状もあると思います。昔ながらのやり方も重要で、そこにいろいろな知恵をあわせる、それから若い方を呼び込むには、若い方が指揮を執る、これもまた重要かと思います。（第

一生命保険株式会社大阪北支社新大阪営業オフィス 有井オフィス長)